

日本人大学生の語彙力の測定

(語彙サイズテストの開発と測定)

田島ますみ(中央学院大学)

佐藤尚子(千葉大学)

橋本美香(川崎医科大学)

松下達彦(東京大学)

大学生の日本語力の問題

文字・表記

文法

語彙

コミュニケーション

ライティング

.....



リメディアル教育学会

- 2009年度全国大会

シンポジウム

- 『リメディアル教育研究』
6巻1号(2011)

特集

語彙力

「問題がある」と思われてはいるが
数量的な議論はあまりなされていない。

(50万語を超える日本語語彙の測定の困難さ)

母語話者の語彙力のより明確な把握のために

非母語話者対象の日本語の語彙量を測るテスト

拡張 ↓

日本語母語話者にも使えないか？

もとにしたテスト

「日本語を読むための語彙量テスト」(松下2012)

非母語話者対象

使用頻度の高い15000語から150語を選択

頻度順位100語ごとに1語

使用頻度の根拠

「日本語を読むためのデータベース」(松下2011)

書籍とインターネットフォーラムで使用された

延べ約3300万語のコーパス

既存の非母語話者用テストを利用するメリット

- 既に非母語話者で実施され、語彙力の判定に活用されている。
- 学習者用のテストは外国語学習のため
語彙を数量的に把握している。
語彙のレベルを考慮している。
- 多様な背景を持つ日本語使用者の語彙力を一つのスケールで測定できる。
日本人大学生、留学生、帰国子女、
中学・高校時に来日した、
日本育ちだが親の言語が日本語ではない、・・・

母語話者用語彙サイズテストの開発

使用頻度上位15000語 ⇒ 30000語

(200語に1語の割合で抽出)

それ以外はもとのテストと同様

- ・テスト項目の語(目標語)を含む短文の提示
- ・目標語の言い換えとして4つの選択肢
- ・150問、実施時間40分
- ・出題順をランダムにした2バージョン

テスト問題例

[6000語レベル]

礼儀： あ的那个人は**礼儀**を知らない。

- 1) おおよその内容をまとめたもの
- 2) 人間関係を守るための行動様式
- 3) ものを大切に思う気持ち
- 4) 理論とは異なる現場の仕事

*** 実際の問題とは異なる**

テストの実施

- 2014年4月中旬から5月初旬に3大学で実施
- 1年次配当日本語科目の授業時間内
- 分析対象

485名(うち1年生:475名)

男性:357名 女性:127名(記載なし1名)

母語:全員日本語

国立大生:146名 私立大生:339名

文系:328名 理系:157名

実施結果

- 出題順の異なる2バージョンに差はなかった。
 - 高得点が多い(予稿集図2と表1参照)
 - 平均点:132.6 標準偏差:17.0
(天井効果がもう少しで出る程度の数値)
 - 最高得点:148 最低得点:34
 - 121点以上が425名(87.6%)
 - 100点以下が22名(4.5%)
- ⇒ 使用頻度30000語レベルでは母語話者の語彙力測定には不十分

得点と推計既知語数レベルの人数分布

得点(点)	推計語数(語)	人数(名)
31 - 50	6001 - 10000	4
51 - 70	10001 - 14000	7
71 - 90	14001 - 18000	5
91 - 110	18001 - 22000	19
111 - 130	22001 - 26000	94
131 - 150	26001 - 30000	356
総計		485

目立つ低得点

- 最低得点レベルの4名の得点

34 36 42 43

⇒ 推計既知語数

6800 7200 8400 8600

- 非母語話者対象の日本語能力試験
旧試験出題基準(2010年に改定される前のもの)
語彙の目安:2級6000語、1級10000語
2級の認定基準:600時間程度学習し、中級日
本語コースを修了したレベル

日本語能力試験の認定の目安

「読む」

N2

- ・ 幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解することができる。
- ・ 一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる

N1

- ・ 幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。
- ・ さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。

まとめと今後の課題

- 出題範囲を使用頻度上位30000語よりも広げてテストを作成する。
 - ⇒ 適正な出題範囲の検証
- 低得点者の存在
 - ⇒ 抽象度の高い文献を読んで理解できない、高等教育についていけないおそれ

さらに・・・

- 一般語彙 ⇒ 学術語彙、漢字
- 日本語母語話者の発達段階にそった語彙量の測定
- ほかの力との関連
 - 読解力、文章力、外国語能力、・・・

参考文献

- 1) 学ぶ人のための基礎教養講座 ManaJin「IRT診断テスト」
<https://manajin.info/irt/> (2014年6月23日参照)
- 2) 松下達彦:「日本語を読むための語彙量テスト」の開発,
2012年日本語教育国際研究大会予稿集第一分冊, 2012,
日本語教育学会, p.310.
- 3) 松下達彦:日本語を読むための語彙データベース, 2011,
Ver.1.1: <http://tatsuma2010.web.fc2.com/> (2014年6月23日
参照)
- 4) John READ: Measuring the Vocabulary Knowledge of
Second Language Learners. RELC Journal, 1988, vol. 19, No.
2, p.12–25.
- 5) Paul NATION & David BEGLAR: A Vocabulary Size Test, The
Language Teacher, 2007, vol.31, no.7, p.9-13.